※令和４年度以降入学生用

学校番号	1009

令和５年度　看護科

教科	看護	科目	基礎看護Ⅰ	単位数	２単位	年次	２年次
使用教科書	「基礎看護」　（実教出版）						
副教材等							

１　担当者からのメッセージ（学習方法等）

看護に対する基本的理解事項を、様々な観点から学びます。初めて学ぶ専門的な内容と、小・中学校で学んできた教科を横断的に活用し、理解を深めます。そのため、学習に対する主体的な授業への取り組みを重視します。また、進路や興味・関心に応じて、自己のあり方を考えてもらいます。

自己理解、適性伸張のための校内実習・実技試験等を実施します。グループ活動を通して、それぞれの役割の理解と相互援助を実感しながら、看護師・患者双方の立場で考えてもらいます。他者理解の意識を伸ばすために、意見の交換や発表も実施します。

２　学習の到達目標

１、基本となる看護の手技について身につけ、実践できる。
２、日常生活の援助の仕方についての具体的な学習を通して、看護の本質と看護の意義について理解する。また、他者への関わり方、理解をすすめ、チームとして活動できる。
３、看護に関する興味・関心を高め、基本的なマナーと積極的な態度を養う。

３　評価の観点及びその趣旨

観点	a:知識・技術	b:思考・判断・表現	c:主体的に学習に取り組む態度
観点の趣旨	看護の各分野に関する基礎的･基本的な知識を身につけ、看護の意義や役割、考え方について理解している。 日常生活の援助及び診療と看護に関する基礎的･基本的な技術を身につけ、その技術を適切に活用している。	看護の基礎的･基本的な知識と技術を基に、より良い看護を行うために適切に判断し、表現する創造的な能力を身につけている。	看護に関連する内容について関心を持ち、主体的に取り組もうとするとともに、実践的な態度を身につけている。

上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に５段階の評定にまとめます。学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

※令和４年度以降入学生用

４　学習の活動

学期	単元名	学習内容	単元(題材)の評価規準	評価方法		
				知(a)	思(b)	主(c)
一学期	看護の対象の理解	1. あなたの考える看護とは何か 2. 人間の理解(統一体・欲求・成長・発達)	a:看護に関する各自の意見と看護の対象である人間の理解について、資料や互いの発言からその意味を整理し、まとめている。 看護の持つイメージと、実際の活動について、理解を共有できている。人間を統一体として把握すること、基本的欲求と成長・発達の過程について理解している。 b:看護における人間理解の基盤となる基礎的・基本的な知識を基に、人の総合的理解を行うために適切に判断し、考えを表現している。 c:望ましい看護観・職業観・倫理観の探究とともに、人間理解を基盤にする看護に主体的に取り組もうとしている。	考査 小テスト 発問への回答	考査 小テスト レポート	レポート 自己評価
	看護の意義・目的	3. 看護の意義(看護とは・看護者の資質) 4. 看護の目的(健康とは何か・病人の看護・健康な人の看護)	a:看護が人間愛を基本に、知識・技術・態度を備えた看護師によって行われることを理解している。 健康の概念と看護の目的から、看護者の専門性について理解している。 b:看護の基礎的・基本的な知識を基にそれぞれの因子を関連付けて総合的に理解することの必要性と、看護の目的について思考を深め、適切に判断し、考えを表現している。 c:看護について今までの理解や考えを積極的にまとめ、単元の理解に活用している。	考査 小テスト 発問への回答	考査 小テスト レポート	レポート 自己評価

※令和４年度以降入学生用

	病床環境の調整	ベッドメーキング	a:病床環境を整えるために必要な基礎的・基本的技術を身につけ、その技術を適切に活用している。 b:病床環境の調整について科学的に思考を深め、適切に判断し、考えを表現している。 c:技術の習得に向けて、設定された活動時間を活用している。	考査 実技実習 実技テスト	考査 実 技 実習 実技テスト レポート	レポート 自己評価 実技実習への取り組み
二学期	看護の歴史	5．看護の変遷（西洋・日本・現代）	a: 看護の起源と歴史に関する資料を読み取り、整理し、まとめている。 看護の起源と歴史に関する知識を身につけ、その知識を基に現代の看護について理解している。 b:看護の発展がどのように進んできたか、その転機や理由を説明できる。 c:これまでの看護に関連する課題に主体的に取り組む。	考査 小テスト 発問への回答	考査 小テスト レポート	レポート 自己評価
	身体の清潔の援助	足浴 洗髪	a: 清潔の援助に関する資料を読み取り、整理し、まとめている。 体験・実習を通して、清潔の援助の方法について基礎的な技術を身につけている。 b:身体の清潔の方法について科学的に思考を深め、適切に判断し、考えを表現している。 c: 実習に際して、看護師・患者双方の立場を意識して援助に臨み、準備物等へ配慮ができる。	考査 実技実習	考査 実 技 実習 レポート	レポート 自己評価 実技実習への取り組み

※令和４年度以降入学生用

	無菌法と院内感染の予防	1. 希釈(計算) 2. 感染と伝染(感染予防の原則) 3. 滅菌・消毒・院内感染の予防 手洗い実習 無菌操作	a:実習などを通して、スタンダードプレコーションの考え方に基づき、滅菌・消毒・隔離・ガウンテクニック・手洗い・無菌操作の基礎的な技術を身につけている。感染予防の原則を理解している。無菌法及び院内感染予防の必要性及び看護者の役割の重要性を理解している。スタンダードプレコーションの考え方と無菌操作全般の方法・手順について理解している。 b:無菌法及び院内感染予防の必要性、感染予防における看護者の役割について、科学的に思考を深め、基礎的な知識と技術を基に適切に判断し、考えを表現している。 c:無菌法に関連する課題へ、計画的に取り組んでいる。	考査 小テスト 発問への回答 実技実習	考査 小テスト レポート 実技実習	レポート 自己評価 実技実習への取り組み

※令和４年度以降入学生用

	フィジカルアセスメント	1．フィジカルアセスメント 2．体温･脈拍･呼吸･血圧(各論)	a:体験・実習などを通して、体温・脈拍・呼吸・血圧を安全かつ正確に観察する技術を身に付け、観察結果を適切に記録・報告している。 フィジカルアセスメントに関する知識と技術が、看護にとって基盤となることの重要性を理解している。体温・脈拍・呼吸・血圧・意識レベルを観察する意義と重要性について理解している。それぞれの測定の原理や影響を与える因子などを理解し、正確に観察するための知識を身につけている。 b:バイタルサインを観察することの意義と重要性、観察方法について科学的に思考を深め、基礎的な知識と技術を基に測定結果の正常と異常を判断し、アセスメントした考えを表現している。 c:バイタルサインについて学習をすすめ、設定された活動時間で技術が習得できるよう活用している。	考査 小テスト 発問への回答 実技実習	考査 小テスト レポート 実技実習	レポート 自己評価 実技実習への取り組み

※　表中の観点について　a:知識・技能　b:思考・判断・表現　c:主体的に学習に取り組む態度